

臼杵藩稲葉家と芝大神宮

江 後 迪 子

Shiba Daijingu and Inaba family of Usuki clan

Michiko EGO

1 緒 言

臼杵藩稲葉家の祐筆日記¹⁾は享和元年(1801)より廃藩置県後の明治14年(1881)年までが臼杵市立臼杵図書館に所蔵されている。この史料は奥の祐筆の記録で、稲葉家の奥方を中心とした江戸後期の武家の生活の様相が詳細に記されている。臼杵藩稲葉家の江戸屋敷は上屋敷が港区西新橋に、下屋敷が港区麻布台にあった¹⁾。史料に出現する港区周辺を主とした江戸についての記録から、今回は稲葉家の江戸屋敷に近い芝大神宮(神明さま)と稲葉家との関わりについて報告する。

2 調査方法

史料は享和元年(1801)より明治14年(1881)年までの80年間、170冊がある¹⁾²⁾。このうち江戸屋敷の記録は表1のとおりで、上屋敷、役所、下屋敷、誠感院屋敷、鼓屋敷の5種類に分けられ、享和元年(1801)より嘉永6年(1853)までの53年

間が存在している。藩主は第11代雍通、第12代尊通、第13代幾通、第14代観通、第15代久通の五代にわたっている。

臼杵藩稲葉家は五万石の外様大名であった。全史料を通読し、芝大神宮に関する記録を抜きだし、年代別参拝についてまとめ、さらに参拝者別、参拝目的別に考察した。

3 調査結果および考察

a 芝大神宮について

芝大神宮は港区芝飯倉町(現・港区芝大門1丁目)にあって、[落穂集](延享3年序・1746)³⁾にすでに芝神明と、またその後も芝神明または飯倉神明とよばれ『江戸名所図会』(1834)⁴⁾、『東海道名所図会』(1797)⁵⁾などにもみられる古くからの神社である。明治5年(1872)から芝大神宮と称されている³⁾。

また芝大神宮は9月の生姜祭りがよく知られており、さらにこの祭りが9月11日より9月21日までと長く、だらだら祭りともいわれ、『江戸

表1 臼杵藩稲葉家江戸屋敷祐筆日記の分類

屋敷	江戸上屋敷	江戸役所	江戸下屋敷	江戸誠感院屋敷	江戸鼓屋敷
屋敷の所在地	港区西新橋		港区麻布台	不詳	不詳
屋敷の広さ	1805坪		3480坪	不詳	不詳
冊数	29	7	25	12	2
年代	享和元～文政3	文化11他	文政2～弘化3	弘化2～嘉永6	文久元～
西暦	1801～1820	1814～	1819～1846	1845～1853	1861～
居住者	11代雍通と室 12代尊通と室 13代幾通と室		隠居後の雍通と室	清昌院(幾通実母) 誠感院(幾通室)	国清院(観通室)

表2 稲葉家の年次別参拝状況

年	月	日	参 拝 者	目 的	土 産 等
享和元年	1801	9/20	家老	秋祭り	
文化元年	1804	9/26	豊姫様(雍通第二子)	秋祭り	
文化4年	1807	9/21	若殿(後の尊通)	秋祭り	生姜 柿
〃	〃	9/24	下屋敷姫様	秋祭り	神明飴ほか色々
文化5年	1808	9/19	姫様(豊姫)	秋祭り	土産色々
文化6年	1809	9/14	若殿	秋祭り	
〃	〃	9/22	姫様(豊姫)	秋祭り	
文化7年	1810	9/21	姫様(豊姫)	秋祭り	
文化8年	1811	9/21	姫様(豊姫)	秋祭り	
〃	〃	9/22	大殿(弘通) 大奥様	秋祭り	生姜 神明飴
〃	〃	9/22	姫様(門姫)	秋祭り	生姜 神明飴
〃	〃	9/26	御側	秋祭り	
文化9年	1812	9/20	姫様(豊姫)	秋祭り	
文化10年	1813	9/22	姫様(豊姫)	秋祭り	
文化11年	1814	9/20	姫様(豊姫)	秋祭り	*雨天につき延引
〃	〃	9/22	姫様(豊姫)	秋祭り	車屋にて御場弁当 生姜 飴
〃	〃	9/26	御側5人	秋祭り	
文化12年	1815	9/16	姫様(豊姫)	秋祭り	
〃	〃	11/28	清姫		
文化13年	1816	9/21	御側2人	秋祭り	生姜 飴
〃	〃	9/25	御側5人		あま酒
文化14年	1817	3/30		江戸見坂 安産御礼	
〃	〃	7/16	辰次郎(後の幾通)		
〃	〃	9/11	大殿	秋祭り	
〃	〃	9/14	辰次郎	秋祭り	
〃	〃	9/16	御側2人	秋祭り	生姜 千木筥
〃	〃	9/21	御側留尾	秋祭り	
〃	〃	9/24		秋祭り	
文政元年	1818	2/11		痘瘡祈禱	
〃	〃	9/14	辰次郎	秋祭り	
文政3年	1820	4/8	辰次郎	元服	
〃	〃	9/29	奥様・辰次郎	地内開帳	
文政4年	1821	9/11	大殿	秋祭り	
〃	〃	9/13	姫様	秋祭り	大門あま酒 千木筥
〃	〃	9/16	大殿	秋祭り	
〃	〃	9/22	御側	秋祭り	
〃	〃	11/1	大殿	神明内祇園へ	
文政5年	1822	6/7	姫様・御側		
〃	〃	9/14	大殿	秋祭り	千木筥
〃	〃	9/15	姫様・御部屋様	秋祭り	鴨 吉野巻
〃	〃	9/22	代参	秋祭り	
文政6年	1823	1/14	大殿	神明内祇園へ	
〃	〃	6/7	大殿	神明内祇園へ	
〃	〃	9/12	大殿	秋祭り	生姜 あま酒
〃	〃	9/13	大殿・姫様	秋祭り	生姜 太々餅
〃	〃	9/18	大殿	秋祭り	
文政7年	1824	9/12	大殿	秋祭り	
〃	〃	9/14	姫様・峯五郎	秋祭り	

年	月	日	参拜者	目的	土産等
文政8年	1825	6/19	大殿	神明内祇園へ	
〃	〃	9/11	大殿	秋祭り	生姜 千木筥 太々餅 飴
〃	〃	9/16	大殿	秋祭り	
〃	〃	9/19	御側6人	秋祭り	
〃	〃	9/20	柳島唯祥院	秋祭り	
〃	〃	11/ 1		神明内祇園へ	あま酒
文政10年	1827	9/13	姫様・峯五郎	秋祭り	
〃	〃	9/20	大殿	秋祭り	生姜 千木筥
文政11年	1828	9/12	大殿	秋祭り	上屋敷へ生姜 千木筥
〃	〃	9/13		秋祭り	生姜 太々餅 千木筥
〃	〃	9/16	大殿 姫様・峯五郎	秋祭り	生姜 かすていら あま酒 源氏揚
〃	〃	9/19		秋祭り	生姜 あま酒
文政12年	1829	6/13	大殿	神明内祇園へ	
〃	〃	9/13	大殿	秋祭り	生姜
〃	〃	9/14	御側4人	秋祭り	上屋敷へ生姜 千木筥 柿
〃	〃	9/15	姫様・峯五郎	秋祭り	生姜 せんべい
〃	〃	9/20	大殿	秋祭り	生姜 焼いも
天保元年	1830	4/ 3	大殿	神明内祇園へ	
〃	〃	9/24	大殿	秋祭り	
天保2年	1831	9/14	御部屋様 側4人	秋祭り	太々餅
〃	〃	9/16	姫様・峯五郎	秋祭り	生姜 せんべい
〃	〃	9/18		秋祭り	太々餅
天保3年	1832	9/12		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/24	大殿	秋祭り	
天保4年	1833	1/20	銚姫(雍通第八子)	婚礼前参詣	
〃	〃	9/14		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/16	大殿	秋祭り	太々餅
〃	〃	9/18	大殿	秋祭り	
天保5年	1834	5/17	大殿		
〃	〃	6/11	大殿	神明内祇園へ	
〃	〃	9/12		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/16		秋祭り	神明土産
〃	〃	9/14	大殿	秋祭り	あま酒
天保6年	1835	6/ 8	大殿	神明内祇園へ	
〃	〃	9/22	大殿	秋祭り	
〃	〃	9/27	山がら連		
天保7年	1836	5/19	大殿		
〃	〃	6/11	大殿	神明内祇園へ	
〃	〃	9/13		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/16	大殿	秋祭り	生姜 太々餅
天保8年	1837	9/20	大殿	秋祭り	生姜 あま酒
天保9年	1838	9/12		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/15		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/18	大殿	秋祭り	生姜 あま酒
天保10年	1839	9/13		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/14		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/16	御側3人	秋祭り	
〃	〃	11/ 1	大殿	神明内祇園へ	
天保11年	1840	9/14		秋祭り	あま酒献上 栗
〃	〃	9/15		秋祭り	生姜 あま酒

年	月	日	参拝者	目的	土産等
天保11年	1840	9/22	大殿	秋祭り	生姜 太々餅
〃	〃	9/23		秋祭り	生姜
天保12年	1841	9/14		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/15		秋祭り	あま酒献上
〃	〃	9/18		秋祭り	あま酒
天保13年	1842	9/13		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/13	御側 2人	秋祭り	
〃	〃	9/15		秋祭り	赤飯献上
〃	〃	9/19		秋祭り	あま酒
天保14年	1843	9/12	御奥様より	秋祭り	あま酒 千木筥
〃	〃	9/15	御側 2人	秋祭り	栗 かすていら
〃	〃	9/18	御側	秋祭り	あま酒
弘化元年	1844	9/11	御側 3人	秋祭り	
〃	〃	9/17		秋祭り	あま酒献上
〃	〃	9/18		秋祭り	生姜 あま酒
〃	〃	9/20	御側 3人	秋祭り	
弘化2年	1845	6/29			
〃	〃	9/14		秋祭り	あま酒 酒 吸物
弘化3年	1846	5/24	誠感院 (幾通室)		*肴献上
〃	〃	9/14	誠感院 竹姫	秋祭り	生姜×3 飴×3 柿 大福餅 神明前人形店 (御出座物とのえ)
〃	〃	9/15		秋祭り	あま酒
〃	〃	9/16		秋祭り	大嶋屋 (あま酒 ちき箱) 献上
嘉永元年	1848	4/28			神明内轎へ御立寄

名所図会』⁴⁾にはその様子が図示されている。さらに『江戸名所図会』⁴⁾には広い境内と末社の数々、芝居小屋や茶屋も見え当時の賑わいがうかがえる。

b 稲葉家と芝大神宮

1 稲葉家と芝大神宮の関わり

稲葉家の関係者は芝大神宮へ度々参拝しているが、年次別参拝状況は表2のとおりである。「神明」に関わる全回数は120回に及んでいる。

江戸屋敷の記録のうち、在位中の殿様(第11代てんかち雍通) および室が住んでいた上屋敷の日記には参拝の記録はない。雍通公に続く12代尊通公、13代幾通公の上屋敷の日記にも記録はない。しかし雍通公が隠居後、下屋敷に移ってからは参拝が多くなる。これは在位中の殿様は公務があり、物見遊山をすることがはばかれたのではないかと推察できる。参拝者のはっきりわかる記録についてまとめたのが表3である。

もっとも多いのは隠居後の雍通で38回、次いで

表3 参拝者

種類	回数
大殿様 (雍通)	38
姫様・若殿様	30
お側	16
お部屋様 (奥方)	3
誠感院 (幾通室)	3
親戚等	3
家老	1

表4 参拝の目的

種類	回数
秋祭り	95
神明内祇園祭	11
元服	1
婚礼前	1
安産お礼	1
痘瘡祈禱	1
地内開帳	1

で姫様・若殿様などこども達の30回、お側 (身の

回りの世話をする人)の16回となっている。奥方の参拝は3回しかなく、奥方が出かける習慣が少なかったのではないかと考えられる。

年代別にみると文化年間になると祭りに関する記録が多くなる。このことは文化の爛熟したといわれる文化・文政年間に祭りも盛大になっていたのではないかと考えられるのである。

次にどのような時に参拝しているかについては表4のとおりである。

秋祭りをもっとも多く95回と全回数の86%に及んでいる。次いで神明内祇園祭りの11回、その他としては元服、婚礼前、痘瘡祈禱、安産お礼、地内開帳などがあり、折りにふれ神明さまにお参りしていたことが明らかである。

先に神明周辺の賑わいについて触れたが、飲食店もかなりあったようである。

江戸後期の買い物や食べ物屋の案内書である『江戸買物独案内』(1824)⁹⁾には芝神明内に「車屋万兵衛」という料理屋が、『江戸酒飯手引草』(1845)¹⁰⁾には芝明神七軒に同名の店がある。さらに『魚盡見立評判第初輯』(江戸後期)¹¹⁾の番付表には行司という高い位置にその名が記されている。このように、『車屋』はかなり有名な店であ

ったらしく、隠居後の雍通公はしばしば通っている。したがって神明参りの他に料亭通いという目的もあったと考えられるのである。『江戸酒飯手引草』には「車屋」の他に芝神明に会席即席料理として「平松庄兵衛」「宇の里九右衛門」「車屋安兵衛」の計4軒、江戸前蒲焼店として「平野屋安五郎」、すし店として「長門すし」、蕎麦店として「亀屋」などの名がみられる。

また『町中年中行事』(1690)¹²⁾には「神明前甲人形売」とか「弓矢、羽子板売」などもあり、季節の商品を商う店があったことがわかる。さらに同書には「12月26日から12月30日には節分として諸人芝神明参りをする。大判、小判煎餅にて拵え売る」とも書かれている。また図1のように『七十五日』(1781)¹³⁾には神明周辺の店として末広酒店「菊屋長左衛門」、名酒店「梅田」、さらさ梅「三河屋正種」、菓子昆布・でんぶ「ひめたや忠蔵」、でんぶ「文字屋」、ごま揚「尾張屋」、精神白うお「今井」、甘酒「大黒屋新兵衛」、すし「亀屋九右衛門」、その他店主名は書かれていないが唐豆腐乾の店も1軒ある。これらのことから神明周辺は門前町として江戸中期から賑わっていたことがわかる。

また参詣にあたって初穂の記録も多いが、文化11年(1814)には三田春日神社と共に百疋が納

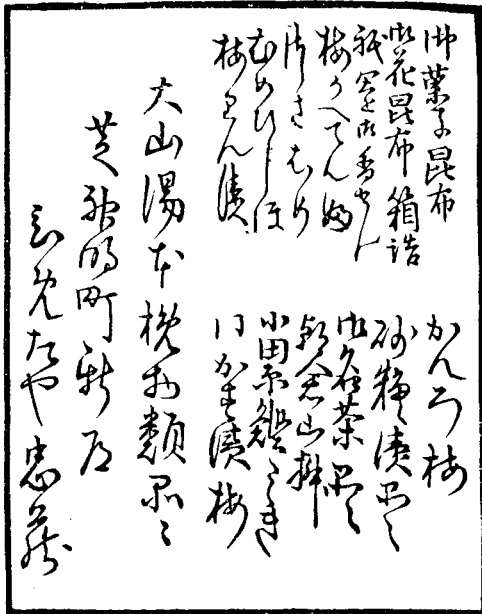


図1 神明周辺の店¹³⁾

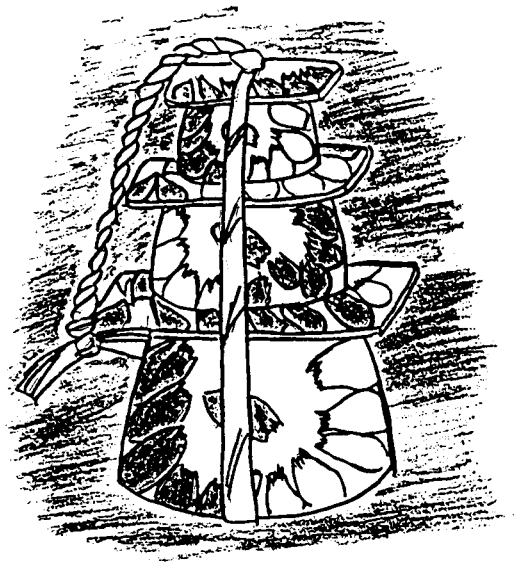


図2 千木筥



図3 『東童郡』歌川豊広画(文化元年)の神明生姜とちき箱

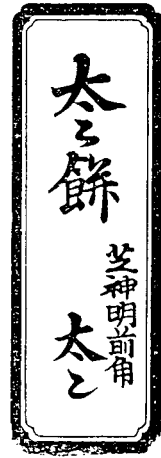


図4 太々餅

められている。

稲葉家の人々は、菩提寺である東禅寺(現港区高輪)への参詣は別として、他の神社仏閣への参詣頻度に比べて芝大神宮への参詣が著しく多い。これは上屋敷、下屋敷とも芝大神宮に近く、地元の神様として親しまれていたのではないかと考えられるのである。

2 生姜祭り

『芝大神宮誌』⁹⁾には、「続江戸砂子」に9月16日を中心とした秋の祭りには参道の両側に生姜や千木筥が並べられ参拝者のほとんどが生姜を買い賑わったことが書かれている。また、『喜遊笑覧』⁹⁾には「芝神明業、鮓、生姜、白其外諸色市たつなり」とある。また「享保以前には端午は粽、9月は生姜を臺にのせて取り交わす」習慣もあったようであるが、享保17年(1732)にはすたれたと記されている⁹⁾。図2の千木筥は小さな曲げ物に五色で藤の花が描かれ、中には餡⁹⁾または豆などを入れたもので、厄除けとしてまた婦女子は千木が千着に通ずることから千木筥をたんすに入れて衣類が多くなるよう願うという風習が生まれたともいわれている。この生姜と千木筥が記録の中にたびたび出現する。神明みやげとしてもっとも多いのはあま酒で31回、次いで生姜の28回、千木筥の10回である。この風景として図3のように江戸時代の神明周辺の水茶屋を描いた歌川豊広の『東童即』¹¹⁾には生姜と千木筥がみえる。

この他太々餅、神明飴の各8回、せんべい、柿、栗の各2回、赤飯、鴨、源氏揚、かすていら、大福餅、吉野巻などの各1回であった。また神明みやげではないが神明祭りにつきあま酒献上という記録も10回みられ、中には文政4年(1821)に大門あま酒というものもみられた。これは前述の七十五日¹⁰⁾にある店であるかも知れない。太々餅は図4のような商標で明治末期まで芝と神田の二軒で作られていて、七五三などにものれんをひるがえし、繁盛していたが¹²⁾、芝大神宮勝田禰直によれば、昭和16年(1941)に廃業したままであるという。しかし、生姜と千木筥を境内で売る伝統は受け継がれている。

3 め組の喧嘩と芝大神宮

芝大神宮といえば「め組の喧嘩」で有名である。稲葉家とは直接関係ないが、ここに少しふれておく。め組とは町火消しのことである。文化元年(1804)¹³⁾の記録では、境内で行われていた芝居を見ていた日頃から不仲の火消しの鳶の辰五郎と相撲取り九竜山が喧嘩をはじめ、双方4時間の乱闘となったというものである。当時は武家火消しと町火消しの勢力争いも多く、社会問題のひとつとなっていた¹⁴⁾。

文化年間には喧嘩も華々しいほどに、神明さまには人が集まる状況があった。

4 おわりに

先に稲葉家の年中行事について、ほぼ宮中のしきたりと同様に行なわれていることを報告¹⁾したが今回稲葉家と芝大神宮との関わりをみていくなかで、稲葉家の多くの人々が折りにふれ芝大神宮へ参詣している様子が明らかとなった。このことは、武家屋敷の多かった港区であることを考慮に入れると、芝大神宮の賑わいが類推されるのである。現在は社会の変革にともない、都市化が進み祭りの維持もむつかしくなっているという。伝統ある江戸の風習を失わないよう、関係者の尽力を期待したい。

(本研究は平成5年アサヒ生活文化研究所の研究助成を受けて行ったものである)

引用文献

- 1) 江後迪子：日本家政学会第45回大会にて口頭発表，東京（1993）
- 2) 江後迪子：白杵藩稲葉家の年中行事について 家

政学雑誌（投稿中）

- 3) 府社芝大神宮社務所編：芝大神宮誌，三秀舎，東京（1942）
- 4) 原田幹：江戸名所図会上，人物往来社，東京（1967）
- 5) 西山松之助：江戸町人の研究第三卷二刷，吉川弘文館（1976）
- 6) 不詳：江戸酒飯手引草，江戸蒼光堂（1848）
- 7) 不詳：魚盡見立評判第初輯，朝日世界の食べ物12-213（1861）
- 8) 三田村鳶魚編：江戸年中行事，中公文庫，東京（1981）
- 9) 喜多村信節：喜遊笑覧下巻，名著刊行会，東京（1993）
- 10) 不詳：七十五日，稀書複製会叢書第三期，東京（1924）
- 11) 三谷一馬：江戸年中行事図聚，立風書房，東京（1988）
- 12) 集古会編：集古第八卷，忠文閣出版（1980）
- 13) 稲垣史生：江戸編年事典，青蛙房，東京，（1975）
- 14) 吉原健一郎・大濱徹也編：江戸東京年表，小学館，東京（1993）